

うである」とあります。現在、真栄田のウマチーは、門中を中心に行っており、男女問わず、それぞれのムートウヤー（本家）を拝みに行っているようです。

【六月ウマチー】

六月ウマチー（稲大祭）は稲の収穫が無事に終わったことを神に感謝する儀礼です。恩納では旧暦6月15日、16日に行われますが、新米で炊いたカシキリ（ご飯）とお酒を供え、ノロ殿内、恩納の神アサギ、瀬良垣の神アサギの順に拝みます。また恩納では、旧暦6月25日に行われるヨー島の豊漁祈願も含めて六月ウマチーとしているのが特徴的です。本来、五月、六月ウマチーは稲作に関する農耕儀礼ですが、恩納においては稲作とともに漁業も盛んだったことから、いつしか結びつき、祭りとしての要素がみられるようになったと思われる。ヨー島の拝所にあるピジユル（石）を持ち上げ、重ければその年はスク（アイゴの稚魚）が豊漁になると言われています。

『真栄田字誌』によると、かつて6月にはウマチーが2回あり、15日を六月ウマチー、25日をウマチーと呼び分けましたが、理由はよくわかっていません。25日の方が盛大に行われていたとのことで、前又毛に戸主たちが集まり、ウカミヤー（御嶽）の神に収穫を感謝し、更なる豊作と区民の健康を祈願したそうです。帰りには御嶽の神木であるクバ（ビロウ）の



恩納の神アサギ

木から切り落とした葉が配られ、クバオージ（扇）として活用したそうです。



塩屋ワラザン設置の様子（撮影：吉田悠）

塩屋も真栄田と同じく、旧暦6月25日に集落内の拝所で祭祀を行い、クバオージ（扇）を各家庭に配布していたそうです。また、ワラザン（稲藁などの植物を結って、数の計算や記録を行う道具）を新調する日でもあります。子孫繁栄を願って、区民より多い数を示すワラザンを結び、御嶽そばのモモタマナの木に縛っています。

（町田）

【参考文献】

- ・『恩納村誌』（仲松弥秀・1980年）
- ・『恩納字誌』（字恩納自治会・2007年）
- ・『とよむあふす』（字誌）とよむあふす」編集委員会・2005年）
- ・『真栄田誌』（真栄田誌編集委員会・2017年）
- ・『沖縄大百科事典』（沖縄タイムス社・1983年）
- ・吉田悠「恩納村塩屋区のワラザン事例報告」
- ・『恩納村博物館紀要 第13号』（2024年）